



“ビスフォスフォネート”?! 何これ

いきなり聞き慣れない横文字で申しわけありません。実はこれは骨そしょう症（漢字では骨粗鬆症）に一番よく使われているお薬の総称です。

骨粗鬆症の患者さんは、日本では約1100万人。主に、高齢者（65才以上）や、閉経後の女性の方や、ステロイドを服用している方に多い病気です。そして、この治療に使われるお薬の多くがビスフォスフォネートです。

ヒトの骨格は約200本の骨からできており、重さは9kgです。見た目は一生変わらないようにみえますが、1年間で6%ずつ、つくり変えられています。骨粗鬆症は、このつくりかえのバランスがくずれて『骨の強さが低下して、骨折する危険が増える骨の病気』です。

ビスフォスフォネート製剤は、この骨折予防に非常に良いお薬として推奨されています。…と、ここまでは、歯や口とは全く関係なさそうなのですが…。このお薬の副作用として、まれに顎の骨が壊れてしまう病気（顎骨壊死）があることがわかってきました。



残念なことに、まだ原因も治療法もわかっていません。ただ、口に関しては、危険因子として口腔衛生状態の不良、歯周炎、ひどいむし歯、入れ歯による傷、喫煙などがあげられています。

歯科治療に関しては、抜歯やインプラント、歯の根管治療等が、危険因子として考えられています。

ビスフォスフォネートと歯科治療の関係については、顎骨壊死・顎骨骨髓炎について報告された症例の多くは、抜歯等の処置や局所感染に関連して発現し、特に抜歯した場合にその部位付近で発現しています。

ビスフォスフォネートを例にあげましたが、この他にも、歯科治療や歯科で出すお薬ととても関係の深い“病気”や、お医者さんで出されている“お薬”がたくさんあります。

歯科治療を受ける時には、必ず御自分で判断されず、きちんと歯科医師に、かかっている病院や診療所、病気の名前、お薬の一覧表をぜひお知らせ下さい。

診療日記

「我、包帯し 神、これを癒したもう」

大学の校舎の壁に書かれていたのを思い出しました。

これは近代外科の父である16世紀の外科医アンブロアズ・パレの言葉です。

学生時代の私はこれを見たとき、治療した結果を神任せに

するなんて科学万能の世にあつて古臭いなあ、と思っていました。

しかし、例えば大きなむし歯で歯を抜く場合、痛みの原因である歯を抜くことが歯科医師の行うことであり、抜いてできた傷は身体（治療能力）が治してくれるのを待ちます。

歯科の治療は身体に傷を

作る処置が多いです。それを治してくれる治療能力なしに治療は行えません。

治療結果に自己満足することなく、己をいましめる言葉として、これからも治療に最善を尽くし、常に謙虚でありたいと思います。